

# nikkor club

278

2024 AUTUMN

特集

ネイチャー写真を  
考える

nikkor  
club





世界的に歴史のある観光地、イタリアのヴェネチア。昼間は観光客でごった返すが、朝は静かだ。夜明け間もない時間帯に島に住んでいる人々が、フェリーに乗って出勤する。水の都ヴェネチアならではのドラマチックな光景。 Z9・NIKKOR Z 85mm f/1.2S・f/1.2・1/100秒・ISO1250



Photography  
Portfolio — vol.2

上田晃司

## PHOTO HUB は1周年を迎えます

PHOTO HUBは9月で1周年を迎えます。これまでオンラインセミナーやワークショップにご参加いただきました皆様ありがとうございました！ PHOTO HUBでは少人数でのワークショップや、Zoomを使ったオンラインセミナーを実施してまいりました。ワークショップでは、直接アドバイザーの先生方とお話しながら撮影することで、とても満足度の高

い時間を過ごしていただけたと思います。オンラインセミナーではチャット機能などを利用して、直接先生に質問することによって理解を深めていただくこともできたのではないのでしょうか。今後も色々なイベントを企画してまいります。皆様のPHOTO HUBのご登録とサークルへの参加をお待ちしております！

### サークルイベントの様子



#### ステップアップ ● 秋山華子先生

1つのテーマをオンラインセミナー・ワークショップ・作品講評までしっかりバックアップ。みんなでステップアップを目指しました。



#### 機材 ● 上田晃司先生

「レンズお試しキャラバン」や「NX Studio」のワークショップなど、ニコン製品をワークショップで存分にお楽しみいただきました。



#### スナップ ● 熊切大輔先生

「人を活かした街スナップ」をテーマに、東京・神戸・博多・小樽にて少人数でのワークショップを実施しました。



#### 組写真 ● 小林紀晴先生

オンラインセミナーで組写真について学び、撮影、組写真に仕上げるまでをレクチャーしています。



#### ポートレート ● 佐藤倫子先生

モデルさんと1対1で撮影ができる。ニコールクラブならではの贅沢な撮影会を実施しました。



#### 風景 ● 三好和義先生

室生寺・東大寺など三好先生ゆかりの場所で、いつもとはひと味違う、特別なワークショップを実施しました。

テーマ問わず投稿可能な「メンバーズ・フォト」やトークを楽しむ「メンバーズ・トーク」事務局スタッフの「スタッフブログ」など、どなたでもお楽しみいただけるコンテンツをご用意しています。また、サークル毎のページでは、サークルのお題に沿った作品の投稿をしたり、ワークショップで撮影された作品を見てワー

クショップに参加した気分になれる投稿ページも。気になった作品には「いいね」をしたり、疑問に思ったことをコメントしてみたり……楽しみ方は人それぞれ！是非ご自分の楽しみ方も見つけてください。また、スタッフブログやアドバイザーの先生の連載記事などを適宜更新中です！！ぜひご覧ください。

## PHOTO HUB by nikkor club

<https://nc-community.nikon-image.com/>



## CONTENTS

特集

## 08 ネイチャー写真を考える

写真・解説 深澤 武／二神慎之介／三好和義

## 02 PHOTO HUB サークルの紹介

## コンテスト

- 34 サロン・ド・ニッコール カラーの部  
選評：熊切大輔（1～3席）／佐藤倫子
- 46 サロン・ド・ニッコール モノクロームの部  
選評：大西みつぐ
- 54 ネイチャー・フォトサロン  
選評：ハナブサ・リュウ
- 62 ステップアップ・フォトサロン  
選評：秋山華子
- 67 ワンポイントアドバイス
- 68 総評・得点表
- 70 予選通過者一覧

## 作品

- 04 THE GALLERY企画展  
「カムイ」 半田菜摘
- 06 THE GALLERYセレクション展  
「海を庭にしてしまった家～  
昭和初期の洋風建築・旧竹田宮別邸」  
石田美菜子
- 07 THE GALLERYセレクション展  
「Kトラ物語 K-TRUCK DREAMY」  
西村仁見

## 表4 熊切大輔×Z6Ⅲ

## 製品情報

- 30 PRODUCT REVIEW VOL.28  
Z6Ⅲ 上田晃司
- 77 ニッコールクラブ会員限定  
「ARCREST II PROTECTION FILTER」  
と「NIKKOR 90周年記念手ぬぐい」  
特別販売のご案内



## 表紙写真 中野耕志

ノビタキは東南アジアから渡来して草地で繁殖する夏鳥だ。小鳥の撮影は難しく、高性能なカメラと超望遠レンズが欠かせない。Z6Ⅲは従来機よりワンランク上の性能を持ち、ノビタキの可憐な姿を余すところなく記録してくれた。  
Z6Ⅲ・NIKKOR Z 600mm f/4 TC VR S + Z TELECONVERTER TC-2.0x(1200mm)・f/8・1/125秒・ISO800・WB：晴天

## 連載

- 表2 Photography Portfolio Vol.2  
上田晃司
- 22 インスピレーション Vol.2  
「クリエイティブスナップ®」と作家・重森三玲  
佐藤倫子
- 24 THE AWARD WINNER  
第48回(2023年度)伊奈信男賞受賞作家  
ERIC 文：タカザワケンジ
- 26 多彩な現場でも  
その実力を発揮するニッコールレンズの魅力に迫る  
野生動物×NIKKOR Z  
100-400mmf/4.5-5.6 VR S 写真・解説：高砂淳二
- 28 エプソン 楽しくきれいにプリント講座 Vol.21  
作品に合った用紙を選ぶには? 熊切大輔
- 32 アベっちの使った!撮った! vol.6  
Z6Ⅲ 阿部秀之
- インフォメーション
- 71 写真展スケジュール
- 72 会員写真展 PickUP!  
「斜光」古清水輝光/  
「灯無音街」憧憬」奥野忠昭
- 73 支部だより・支部展情報
- 74 NCニュース
- 78 イベントレポート・イベントニュース
- 表3 PHOTO HUB REPORT VOL.1
- 巻末 ニコンダイレクトFAXご注文書  
ニッコールクラブ登録情報変更依頼書  
会報279号フォトコンテスト応募規定

ネイチャー  
写真を  
考える

What is the Nature Photography?

nikkor  
club

# これからも、 自然風景・ 動物の撮影を より楽しむためには

ニッコールクラブ会員の皆さんにも

多く愛好されている、ネイチャー写真。

自然風景や野生動物を撮影することは、

私たちに自然の美しさ、

その神秘を再発見させてくれます。

自然の一瞬を記録することは、

多くの人々にその美しさや貴重な瞬間を共有し

未来に残すことも可能にしてくれます。

この特集では、ネイチャー撮影の楽しさや意義、

モラルについて考え直し、

これからも美しい自然風景や動物写真の撮影を

楽しむための方法を探っていきます。

写真・解説

深澤武／二神慎之介／三好和義

# nikkor club

北海道支笏湖。湖面のさざ波を消すためにスローシャッターで撮影。湖の切り株の根まで写った。PL、ハーフND、濃いNDフィルターを3枚重ねて、空と水面の明るさのバランスを取った。

Z9・NIKKOR Z 14-30mm f/4

S・f/16・6.0秒・ISO64

撮影：三好和義



朝の光で赤く染まる三瓶山。振り返ると雲海に包まれた山並みが連なっており、朝のドラマチックな風景を堪能した。夜明け前から山に登ってよかったと思う瞬間だ。

Z7・NIKKOR Z 14-30mm f/4 S・f/11・1/15秒・ISO200・NDフィルター

自然風景は季節や気象条件によつてさまざまな表情を見せてくれます。これからの季節、木々は色づきを増し、山々は彩りに満ちた風景を見せられます。また寒暖差が大きくなるにつれ、早朝には雲海も発生します。朝の光に照らされた雲海はドラマ

チックで大きな感動を与えてくれるでしょう。いつもよい出会いに恵まれるとは限りませんが、チャンスは誰にでも平等です。外すことを恐れずに積極的に出かけていきたいものです。また足元に広がる小さな世界を見つけるのも楽しみの一つです。雨を纏った苔はマイクロレンズでとらえ

### 積極的に出かけて積極的に学ぶ

## 自然風景の魅力とは？



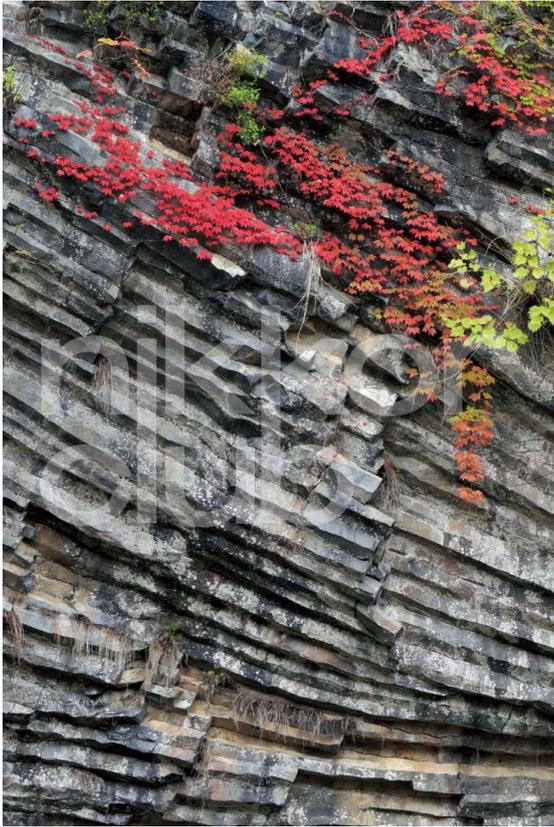
二又に分かれたブナの間隙に夕日が輝いていた。紅葉を巡る山歩きの後、駐車場へ戻る道の途中で偶然出会った風景である。自然は時に予想もしない感動を与えてくれる。

Z7・NIKKOR Z 24-70mm f/4 S・f/16・1/2秒・ISO200

# 自然風景について考える

深澤武 || 写真・解説

What is the Nature Photography?



ツタの紅葉をアクセントに玄武洞の柱状節理を望遠レンズで切り取った。溶岩が冷えて固まる際に収縮することで形作られた幾何学構造である。

Z7 II・AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR + マウントアダプター FTZ・f/16・1/2秒・ISO200・円偏光フィルター



カラマツが色づいた宝永火口で迎えた朝、曙光が新雪をいただく富士山を照らし始めた。上空に浮かぶ月を入れることで、大きく口を開けた火口のスケール感を引き出した。

Z7・NIKKOR Z 14-30mm f/4 S・f/11・25秒・ISO200・円偏光フィルター+NDフィルター



大雪山の御鉢平カルデラ。蛇行する川の流れを望遠レンズで切り取り、ほとんど草木も生えない火口らしい荒涼とした雰囲気を引き出した。

Z7・AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR + マウントアダプター FTZ・f/8・1/125秒・ISO400・円偏光フィルター

## 自然風景を自分らしくとらえるには？

ることで珠玉の輝きを見せてくれますし、可愛らしいキノコからは物語性のある作品が生まれます。

樹木や花、苔、キノコなどについて、名前がわからなければ、私は図鑑で調べるようにしています。解説を読むことで生態についての知識を深められるだけでなく、今度はこの花を探してみようなど、新しい目標が生まれてきます。

### その場所にいるから撮れる

フィールドに長くいると、たまた

### 絶景を美しく撮るだけじゃない

自然風景を撮るとして、竹田城や父母ヶ浜など、絶景と呼ばれる風景を追い求め、全国を網羅すれば一つの作品としてまとまるでしょう。ただ、どこかで見たとのことのある風景という印象は残りがちです。何か特定のテーマを持ち、興味や知識を深めながら撮影すると自分らしさを出しやすくなります。気に入った地域を撮る、郷土の山や身近な川を撮る、特定の花や生物を撮る、夜景や月明かりの風景など、様々なアプローチ

まその時、その場所にいたから、自然が撮らせてくれることも出てきます。突然噴火して噴煙を高々と上げ始めた新燃岳、月夜の阿蘇で見た霧に包まれた幻想的な風景、ミヤマキリシマが満開の韓国岳で出会ったアサギマダラ、想像もしていなかった驚きの風景、探し求めていたけれど偶然に出会えた花、まったく予想外の生物との出会いもありました。どんな出会いがあるか分からない自然界ゆえ、一通りの機材を準備してフィールドへ向かうのが私の鉄則です。

が考えられます。

私は桜をテーマとするうちに桜には多くの品種があることを知り、秋に咲く桜や八重咲きの桜の美しさに気づけるようになりました。また火山をテーマにすると火口の風景や火山由来の地形に関心が湧いてきます。富士山は有名撮影スポットですが、火山らしさを引き出すために宝永火口での撮影は欠かせません。絵になるかならないか、美しさだけに着目するのではなく、物事の意味をとらえることで独自の視点が形成されてゆくとはいえず。

# nikkor club

雲海に包まれた竹田城が朝日に染まる瞬間を望遠レンズで切り取った。竹田城を望む立雲峡は人気のポイントだが、階段状にテラスが整備されており、余裕を持って撮影できる。

Z7・AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8E FL ED VR + マウントアダプター FTZ・f/11・1/60秒・ISO200

## 自然風景を撮る際の マナーやルールについて考える

### すべての土地に所有者あり

人が多く集まると、カメラマン同士、地元の方や一般の観光客との間に問題が生じることがあります。三脚により特定の場所を長時間占用したり、私有地への立ち入りするなどです。公園や公道(車道や遊歩道など)、河川や海において趣味の風景撮影はたいして自由に行えますが、基本的にすべての土地に所有者(管理者)がいます。公園などで三脚を長時間設置することは土地の占用になり許可が必要な行為です。「俺(私)は早くにきて場所を確保しているのだ」という主張は本来認められないはずです。また道路脇に車を止めて、道のない森に入る場合にも森林の所



所有者から立ち入りの許可を得る必要があります。森は国有林や県有林、私有林など様々ですが、入林届を提出するなどの手続きが必要です。

### 災害や事故に対する緊張感を

また、転滑落はもちろん、沢筋では突然の雨による増水などにも注意が必要です。近年はクマとの事故が増えているのも心配です。上高地や軽井沢、尾瀬、裏磐梯など、ネイチャー撮影のフィールドには、どこにでもクマはいるという認識が必要です。特に朝夕や夜間のような人が少ない時間帯は慎重な行動が求められます。出会い頭の事故を防ぐためクマ除けの鈴を鳴らすなど、対策を講じて撮影をしましょう。

森は国有林や県有林、私有林など様々ですが、国有林であれば各地の森林管理署(林野庁)へ、入林届を提出する必要があります。書類は常に携帯することを忘れずに。

# nikkor club

高温のマグマや火山ガスによって噴気が赤く染まる火映現象。夜明け前の刻々と光が変化する時間帯、スターライトビュー機能を活用して星の動きに合わせて構図を調整しながら、14ミリ広角端で天の川と共に撮影した。

Z9・NIKKOR Z 14-24mm f/2.8 S・f/2.8・30秒・ISO2500

## 自然風景を撮る意義と これからへの期待

### 今はもう観られない風景の共有

写真の役割のひとつに記録として残すということがあります。かつて尾瀬や霧ヶ峰で見られたニッコウキスゲの大群生は温暖化による鹿の増加により、今では保護柵の中でしか見られなくなってしまうました。自然は永遠に同じではなく、その時々移ろいがあり、後々記録としての価値が出てくる可能性があります。

### 生成AIとの関わり

生成AIが実用化され、草原をお花畑に変えたり、海風景にクジラを描き足すことも簡単にできるようになりました。ただ本来広葉樹に生えるキノコを針葉樹に描いてしまったら、密生しないキノコを盛りだくさんにしてしまうと嘘になってしまうます。自然写真に何かを加えることはリアルさを損なう危険性をはらんだ行為です。

技術的な可能性はどんどんと向上してゆき、新たな表現を切り開いてゆくことができるでしょう。一方で自然の可能性は無限であり、出会い

や驚きに満ちており、人の想像を超えてきます。自然風景写真を撮るということは、写真が持つ記録性を大切にし、自然が持つ魅力を楽しみつつ、正しく伝えてゆくことに大きな価値があるのではないのでしょうか。

約30年前、霧ヶ峰はニッコウキスゲが一面に咲き、黄色い絨毯のようであった。保護柵の中は鹿の食害から回復しているが、コロボックルヒュッテの脇にキスゲの姿はない。

F3・Ai Nikkor 50mm  
f/1.2S・f/16-1/8秒・ベルビア



# nikkor club

What is the Nature Photography?

## 動物写真にどうして 考える

二神慎之介 写真・解説

### 動物写真の魅力とは？

#### 「当たり前前の光景」こそ美しい

野生動物撮影は、機材や情報の流通の進化によって、最も身近になった写真ジャンルの一つと言えるのではないのでしょうか。多くの方が、テレビで見て憧れたような、劇的なシーンを切り取ることができるようになってきました。

しかし私が最も感動するのは、派手で劇的なシーンよりも、野生動物の素顔をうかがわせるような、普段の日常を垣間見ることができた時です。例えば、ヒグマが川で水飛沫を上げてサケを捉える迫力あるシーンは素晴らしい。きつと映像で見たことがある方も多いでしょう。しかし、人知れず山の斜面に出てきた母熊が、じゃれあう子熊を気遣いなが

ら、静かに草を食み続けている……。

そんなシーンに出会えた時のほうが、私は彼等の素顔に近づけたような気がして、胸の奥に染み入るような感動を覚えます。そして、人間がなかなか見ることのできない、当たり前前の動物の生活こそが、伝えるべき「野生動物の素顔」だと思い、そんな一枚を撮りたいという思いを胸にフィールドを歩き続けてきました。

#### ただ静かに待ち続ける

「歩くこと」と「待つこと」。大雑把に言えば、野生動物の素顔に近づくためにできるのは、この2つだけだと私は考えています。迫力や鮮明さに傾倒し、つい誇張しがちになる動物写真の世界で、彼等の静かな素顔をとらえようとすることは、一見

初夏、ヤマザクラの実を食べに樹上に姿を見せたツキノワグマ。木の実は豊凶があるが、それとは別によく来る木、あまり来ない木もあるように感じる。このクマも「よく来る木」に登った。何年も観察しているとそういうことがわかってくるように思う。

Z9・NIKKOR Z 180-600mm f/5.6-6.3 VR・f/6.3・1/500秒・ISO3200



流氷で埋まる海を見下ろす場所に立ち、吹き荒れる冷たい風に乗って滑空するオオワシの姿を探した。遠く風に乗れ、氷上を飛んでいく一羽のワシの姿。ただそれだけの当たり前の光景が、彼らの棲む世界の雄大さを素直に教えてくれる。

Z9・NIKKOR Z 180-600mm f/5.6-6.3 VR・f/6.3・1/2000秒・ISO220

遠回りな道のりのようにも思えます。しかし、それ故に被写体を深く理解し、自分だけの出会いに辿り着く可能性を秘めています。動物の生態を学び、彼らが来る場所・季節を予測し、自信をもって待てる場所を見つけるまでフィールドを歩き続ける。そして、そういった場所に巡り合えたら、逸る心を抑えて静かに何時間も、何日も待ち続ける。その果てに、待ち焦がれた野生動物が静かにあなたの眼前に現れた時、きっと一生忘れられないような感動と、写真を残すことができるでしょう。見返すときに、その動物に出会えるまでの困難や高揚感も同時に思い起こさせてくれる。私は、そんな一枚に辿り着くまでのプロセスこそが、野生動物を被写体とした写真撮影の、最大の魅力だと考えています。

## 野生動物を撮る際の マナーやルールについて考える

### 被写体との距離感

動物撮影について回るのが、被写体と撮影者の距離感の問題です。私たちが被写体とするクマは最近全国で出没が取り沙汰されていますが、知床

における撮影者のマナーは、以前より問題視されてきました。また、身近な被写体では野鳥の営巣への接近や、餌付け等の問題も挙げられます。私は、この問題に関しては100%正しい人はいない、と考えています。



人の生活圏のすぐ近く、大きな木の洞にエゾフクロウを見つけた。「きっとフクロウが入るだろう」と数年間チェックしていた洞なので、喜びも大きい。

Z9・NIKKOR Z 180-600mm f/5.6-6.3 VR・f/6.3・1/320秒・ISO2500



スノーシューで被写体を探す、雪が降り積もった道東の真冬の森。エゾシカが木々の合間からそとこちらを覗いた。無理に近づかず、相手の目がしっかりこちらを見ているときに静かにカメラを構え、自然な表情を狙う。

Z9・AF-S NIKKOR 500mm f/5.6E PF ED VR + マウントアダプター FTZ II ・f/5.6・1/250秒・ISO3200

野生動物に近づく以上、いかなる方法でもプレッシャーをゼロにすることは難しいでしょう。故に「私はそんなことはしない」と突き放すのではなく、常に自らも関係する問題として考え続けることが、動物撮影を楽しむ者の義務だと私は思います。

### 動物写真のウソ

もう一つ、気をつけたいのは『動物写真のウソ』です。餌付けなどをして撮影した写真を、そういう部分を排除して発表すると、動物本来の生態ではありえないシーンとして伝わってしまいます。写真に迫力や鮮

明さを求めることは大切な要素です。しかし行き過ぎて事実を曲げてしまわないように注意したいものです。

機材の進化によって、厳しい状況下での撮影もコントロールできる部分が増えてきました。夜のストロボ撮影についてもさまざまな意見があるかと思えます。しかしそれをダメだと決めつけるだけではなく、例えば飛躍的に向上した高感度をフルに使って、ストロボやライトの光量を極力減らし、被写体への影響を最小限に夜行性の動物の撮影にトライする。そんな考え方があっても良いと私は思います。

## 動物写真を撮る意義と期待したい未来

### 派手さ優先の写真でいいのか？

SNSの普及によって、写真の楽しみ方が大きく変わりました。動物写真も例外ではなく、画面の中に飛び交う無数の画像の中から、一瞬で人の目を惹きつけるために、迫力や派手さが写真を占める割合の中で非常に大きくなっているように思います。鑑賞する側の写真を見る時間の短さは、撮影スタイルにも影響してい

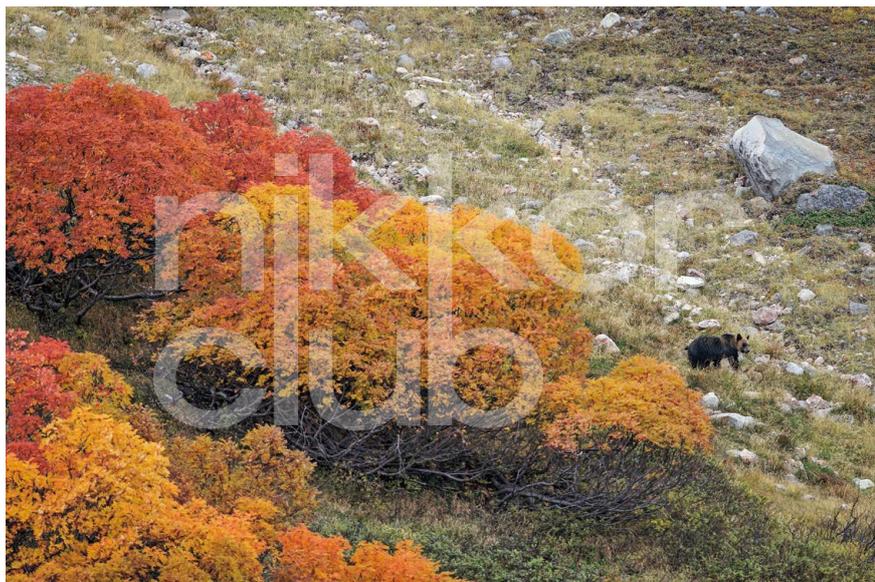
ます。派手な写真を短時間で大量に撮る。効率を求めて、有名な場所に多くの撮影者が押し寄せ似たような写真を量産して帰っていきます。多くの人が楽しめるようになりましたが、それは同時に、撮影がどんどん派手さ優先になって自然を真摯に見なくなってしまう危険性ははらんでいます。先に述べたように、自然写真は、自然との向き合い方、動物写真は動物との向き合い方がとても大切



ヒグマを探して大雪山の稜線を歩いていると、突然現れたエゾシマリス。予期せぬ小さな動物たちとの出会いもまた楽しい。  
Z9・AF-S NIKKOR 500mm f/5.6E PF ED VR + マウントアダプター FTZ II ・f/6.3・1/500秒・ISO125



子どものキタキツネが、木の間からじっと撮影者の姿を見つめていた。好奇心と緊張感がまぜまぜになったような表情。  
Z9・AF-S NIKKOR 500mm f/5.6E PF ED VR + マウントアダプター FTZ II ・f/5.6・1/500秒・ISO2000



赤く染まった山肌を歩いていく、秋のヒグマ。紅葉とクマを狙ったが、秋に稜線で出会うイメージが無かったので、夏にヒグマが現れる場所を訪れて、出現を待った。  
D5・AF-S NIKKOR 500mm f/5.6E PF ED VR・f/5.6・1/400秒・ISO2500

で、それこそが魅力なのだと思う  
います。一枚に至るプロセスを大切に、被写体に配慮して、自らの足で歩き、自然に対する理解を独自の視点で深めていく。そんな撮影を私は目指したいと思いつけてきました。  
ここ最近、とても嬉しかったのは、自然にじっくりと向き合い、深く理解しながら撮影を続けている何人も

の若手に出会ったことです。彼等は、一つの風景や一種の小さな動物を撮影するために北海道に移住してきました。しっかりと現状を見据えて自然と向き合う若い撮影者たちの存在は、細々と自分の撮影を続けてきた私にはとても心強く感じられます。彼等のこれからの素晴らしい活躍に期待する次第です。

# フォトコンテストにおける ネイチャー写真とは

三好和義 | 写真・解説



奈良の曽爾高原。23年10月に撮影。脚立に乗り見事な山並みを背景にして撮影。逆光でススキが銀色に。レンズ特徴を考え絞り込んで光芒を表現したのがポイント。  
Z8・NIKKOR Z 14-30mm  
f/4 S・f/22.0・1/30秒・ISO100

## フォトコンテスト において ネイチャーとは？

ネイチャー写真とは、言葉通り自然を描写した写真。もちろん自然が意味するものは、多岐にわたっています。

### 動物を撮る、 ネイチャーとして撮る

ニッコールクラブの会報フォトコンテストでは、ネイチャー・フォトサロンの部への応募は動物写真が多い印象。動物の生息地に行き、ワールドな生態系に生きる彼らを被写体におさめるのは、ネイチャー写真の醍醐味なのでしょう。それならば文句なくネイチャーと呼べます。審査中に、問題になるのは動物園の写真。望遠で自然の中に行って撮ったように表現された作品もあります。ここはいつも悩むところ、僕らは、基本的には動物園はNGだと思っています。アフリカのサファリも動物園の類ではないか？という意見もあるが、それはネイチャーとして考えてもいいのではないか思っています。動物写真に関しては、撮影する際の問題



もあり、特に最近、増えているような気がするのは、熊などに接近して撮影された作品。もちろん作品としての迫力はあるのですが、撮影した状況を考えると危険この上ないです。接近戦を評価し入賞となると、この手の作品が増えたりします。撮影される皆さんの安全も考えて、最近では作品の選定には気を使っています。そんな点も、コンテストとしてのネイチャー写真ならではの問題だと感じています。

最近問題になったのは牧場での撮影。これはボーダーかなと僕は思っています。それと街で撮られた犬や猫の写真は、野良であつてもネイチャー写真には入らないですね。

### 植物や昆虫、風景を撮る

植物ならば野に咲くものは、ネイチャー写真。でも花瓶に飾った切花は、どんなに美しく撮ってもネイチャー作品ではないと僕は考えます。自然が持つ意味を再確認するのが、ネイチャー写真の醍醐味。自然風景などの作品に感化されて、見る側はその自然の美しさや価値をわかりやすく感じることで作品が完成します。自然風景、動物、植物、昆虫と被写体が多岐にわたるネイチャー写真というジャンル、今一度、その線引についてお話ししました。



北海道の鶴居村。ここは有名なタンチョウ撮影の人気ポイント。周囲の撮影者は望遠、でも僕は皆が使っていない広角レンズで撮影。人気のある場所では、人が使っていないレンズやアングルを考えるのも大切。音羽橋の上からの撮影なので、強引な場所どりはしない、大声を上げないなどマナーも大切。 D810・AF-S NIKKOR 14-24mm F2.8G ED・f/11・1/1500秒・ISO4

## ネイチャー写真 気をつけたいマナーとルール

ネイチャーだけではない問題ですが、昨今一部の方がマナーやルールを守れないために、撮れなくなってしまう風景などがあります。動物写真も生き物を撮るという前提をしっかりと意識した行動で撮影に臨んでほしいものです。

### 自然風景の現場で

先日、福島の湿原にロケに行つてある看板に遭遇しました。

「カメラマンの方へ」と書かれ「マナーの悪い方」がいますとそこは朱色で強調されていた。その看板には、ルールを無視した行為で大切な植物が犠牲になってしまうと警告してありました。この看板を見て、写真を生業にするものとして、情けない思いをしました。

写真愛好家⇨常識のない人と世間で思われているとしたら、カメラを持って野を歩くことが恥ずかしいことになってしまいます。自然を愛し、それを表現するならば、その対象に敬意を持つのは当然のことです。この問題に簡単な解決策があるとは思えません。「マナー守りましょう」と連呼するしか手立てはないのです。

### 動物・昆虫の場合

昔話にはなりますが、カエルを接着剤で固定して、作品づくりをしていた時代がありました。そんな写真がコンテンツに入選していたのです。

僕は風景が専門で、動物・昆虫の専門家ではありませんが、それでも、動物を撮る機会があるので気にしているのは、鳥の巣などの撮影。いくら望遠を使つても、巣の中を覗くアングルで詳細に撮影することはNG行為だと思つています。このような行為に親鳥が驚き、巣を放棄してしまうことがあるとのこと。フラッシュでの撮影にも、配慮すべきだと思つています。

トンボや蝶など昆虫の撮影には、フラッシュで撮影しても問題はないでしょう。動物の場合と同じですが、被写体になる昆虫が驚かない、驚かせないが基本だと思つ。また、疑問に思つたら専門家に聞くのが早道。デジタルになつて感度も上がり、フラッシュなしでも、夕暮れの動物・昆虫の撮影も可能になりました。技術の進歩が、マナーの向上につながってくれば、一番美しい写真ライフになるのではないのでしょうか。

# コンテストにおけるネイチャー写真の合成

どこまでが写真か？

デジタルになって、カメラが劇的に変化。さらに最近では生成AIの技術により、どんな素材でも思うがままの画作りができる様になってきました。とすると、これはどこまでが写真表現なのでしょうか。

コンテストの応募作品でなければ、AIを含めて、最新の技術を駆使するのは、表現の幅が広がるのだと理解しています。僕も星の軌跡を表現



奄美大島に隣接する加計呂麻島。天の川の撮影に行った。画面下の広がる島々と天の川が立ち上がる時刻が大切。そのためにF値の明るい広角レンズを使っている。

Z7・NIKKOR Z 24mm f/1.8 S・f/1.8・20秒・ISO6400



西表島のパラス島。画面的には夏のように見えるけど1月に撮影。冬は水の透明度が増して、より鮮やかに表現できる。広角レンズを使い、空と海の青さを表現。Z7・NIKKOR Z 14-30mm f/4 S・f/8・1/500秒・ISO200

## ネイチャー写真を撮る意義

### ネイチャー写真のスタイル

僕はネイチャー写真に属される作品を数多く撮っています。若い時は、世界中の美しい海の風景を撮り、それを「楽園」と名付けたのです。最近、そんな作品に「地球温暖化から海を守る」という気持ちがあるのかと聞かれることが多くなりました。残念ながら、僕にはそんなメッセージはありません。僕の写真を見て「美しい」と感じてくれればそれでいいのです。見た人が「この美しさを守らなければ」と思ってくれたら、それは嬉しいことですが、そんな反応を強要する気持ちはありません。

ドキュメンタリーならば、そんなストリートな伝え方もあるのだと思います。でも、自分のネイチャー写真は、芸術でいたいと思っているので、メッセージを前面に掲げることはしたくはないと思います。ネイチャー写真ではないですが、古いお寺を撮影すると、仏像から悠久のときを感じるがあります。被写体の持つ力そのままを偽ることなく映し出す。ネイチャー写真もそれで十分なのではないかというのが、僕の実感です。

するために、比較明合成を使い表現しますし、蛍の撮影でも、この比較明合成を使っています。デジタルになってこの手の表現するのは、すでに当たり前になっています。最近では、高感度で撮った写真のノイズを軽減するためにスタック合成も使っています。

### ネイチャー写真と合成

ネイチャーの場合、どこまでが許される範疇なのか、これほど複雑な問題はないでしょう。まさに今日の

な問題。しかも、技術は日進月歩でどんどん進んでいます。もし、今日規定を決めても、明日にはその技術が追いついて行くのです。

ネイチャー写真のフォトコンテストに限って言えば、この比較明合成やスタック合成までが認める限界だと思えます。この二つの技術に関しては、撮影もしていないものを合成して作品を完成させているわけではないですから。今のところでは、この辺で止めるべきだと僕は思っています。

# 熊切大輔 × Z 6Ⅲ



Z6Ⅲ・NIKKOR Z 24-50mm f/4-6.3・f6.3・1/640秒・ISO1600

しつとりとしたインクラインの  
柔らかい光と影のコントラスト。  
Z 6Ⅲと  
NIKKOR Z 24-50mm f/4-6.3の  
コンパクトな組み合わせは、  
天使が羽を  
広げているように見えた  
瞬発的なシャッターチャンス  
を逃さなかった。